

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長：浜田一哉 編集責任者：野嶋 功 印刷所：東京印刷(株)

5月例会報告

平成16年5月17日(月)米子コンベンションセンターにて5月例会が行われた。

冒頭の浜田会長挨拶では御自身の入会当時の経験・思い出を交え、中央会の可能性について語っていただき、残りの任期2ヶ月間への全会員に対する協力要請という形で結ばれた。続いて、新入会員の野田明氏にバッジ授与が行われた。

「次年度理事・監事・県出向役員の指名推薦の件」について臨時総会が開かれ、盛大な拍手と共に承認された。委員長タイムでは松浦国際交流委員長より現在の鳥取県内・米子市内の外国人人数について、また今後さらに増えるであろう外国人労働者との共存について、問題点も含めて話された。最後の『これからは「1人国際交流委員」として頑張る。』という言葉で会場は笑いに包まれた。

情報メディア委員会が担当し、オープン例会となった今回の例会は有限会社ジャプロの幸形ノブユキ氏を迎え「ホームページの現在・過去・未来 ～だれも知らなかったwebページのウラ側」という演題で講演が行われた。



内容について

ホームページ製作の要点

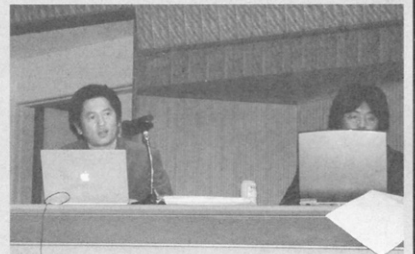
- ☆チラシ感覚でなく、ネット上に店舗・営業所をつくる感覚で他のページとの差別化を図る。
- ☆商品がネット向きかどうかの見極めが大切。
- ☆顧客の立場に立ったページ作りが重要。
- ☆アクセス数を延ばすための工夫・仕組み作りが大切。
- ☆クレームの中にヒントがある。客観的意見を聞くようにする。

ホームページ管理の裏側

- ☆ネット上にある大規模なホームページも、数人もしくはたった1人の熱意で運営されている場合がある。

これからのインターネット

- ☆日頃の業務の中で起こる事例を生かしつつ、システムを最適化することが重要である。それによりホームページの効果に差が出てくる。
- ☆ただ情報を待っているのではなく、自分から発信するように心掛けることが重要。それによって情報が集まってくるはずである。
- ☆ホームページをしっかりとしたサービスの一環という立場にすることが大切である。



講演締めくくりの『インターネットを通じた商売というのは、どこか顧客の顔が見えないイメージがあるが、商売である限り顧客本位に考えなければならない。たまたま媒体としてインターネットを使うだけである。』という言葉の中に意外な方面から商売の真髓に気付かされた素晴らしい講演であった。

桑垣副会長が謝辞の中で話された「真心を持った対応」という言葉が非常に印象に残った。

(広報：須山裕文)

次年度を支える理事・監事は以下の12名が指名承認されました。

県出向理事・監事は以下の4名が指名推薦されました。

理事

監事



平新(隆)会員



濱(勇)会員



野口(隆)会員



植田(隆)会員



高田(隆)会員



中津尾(隆)会員



釜田(隆)会員



畠山(隆)会員



山根(隆)会員

県出向監事



武海(隆)会員



高橋(隆)会員



北(隆)会員



内田(隆)会員



増井(隆)会員



渡辺(隆)会員



後藤(公)会員

県出向理事

未来

Humane Do everything that is humanly possible

2014.6
No.307

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 一体誰太郎 編集責任者 平成15年度広報委員会 印刷所 東京印刷株式会社

今号の「未来ハンサム」は、地方自治や教育などの分野で社会に貢献され、この春の叙勲で旭日小綬章を授賞された平田賢元米子市議会議員長に鳥取県西部地区の将来像について語っていただきました。

氏は昭和30年米子市議会議員初当選以来、昨年勇退されるまで12期48年、市政に貢献し市町村合併問題に際しては地方分権・市町村合併等調査特別委員長としてご尽力されました。



これからは地域住民の方々がみんなで意見を出し合いながら、自分たちの力でやっつけていこうという体制をどうつくっていくかということが地方分権の基本になるわけだから行政もそういう方向で住民のみなさんに啓蒙や援助することを念頭において対処していかなければならない。

そして、市町村合併の問題。たとえば建築の例をあげると、米子には技術者が多くいるが、農業中心の村や町には少ない故に発展性がない。よって合併すれば協力体制ができ、人材の広く専門的な求め方ができる。まずは地方分権末端の行政体制に力をつけるため、国税を地方に投入する。極論すれば3：7＝国：都道府県市町村でやっていけばいい。国がこれから地方分権を主張していくのならば、財政的にも見直しを行い、地方が良くなることによって国が栄えていくことになる。そういうことを考えてみると、地方分権で財力あるいはすべてにのこのことについて力をつけて

いくためには合併しかない。

これからの課題として中間の都道府県を現状のままにしておいて良いのか？という問題点を取り上げなければならない。市町村合併よりも大規模なグループつまり道州制を先にやるべきだとも思う。結局、都道府県市町村が力をつけるためには土地が広大でなければならないからだ。そこに土地がある限り人が定住していく、そして産業文化すべてのものがそこに居着いて発展していく。

これから10年間、どうしていけば良いのか私なりの考えを言えば鳥取県西部は県庁のある鳥取市と松江市の谷間になってしまっている。今後21万人になるであろう鳥取市中心に発展してしまい、分散してしまっている西部は力が弱まり東高西低がさらに進んでゆることが考えられる。平成17年3月以降も粘り強くまずは20万人都市構想を目標に置き、それを前進させるためには行政とも話し合わなければならない。しかし、まずは地方分権の精神に法って地域住民同士の意見交換を民間団体も含めてすることが、いずれは土地を拡大し鳥取県西部の優秀な人材を得ることにつながる。そういうことを考えていかなければならないのではないかという気がする。

(広報：福庭貴志)



チャリティーゴルフコンペ



4月25日(日)、グリーンパーク大山ゴルフ倶楽部において30周年記念事業ゴルフコンペが開催された。

7時30分、空気は幾分冷たかったが、気持ちの良い朝だった。8時過ぎ、我が中央会のメンバーが次々と集まりだした。朝の挨拶があちらこちらで交わされ、みんなの明るい話し声が聞こえてきた。

8時30分、倶楽部正面の芝の前に全員集合し、開会の挨拶・チャリティー募金のルール説明がなされたあと記念撮影が行われた。

8時48分、IN・OUTそれぞれで始球式を行い、いよいよ全21組、OB会員27名を含む総勢81名による大ゴルフコンペがスタートした。先輩・後輩が同じ芝に立ち、珍プレー・好プレーに一喜一憂しながらの大変楽しい1日となった。

懇親会は場所を移して、18時よりホテルサンルート米子において開かれた。

中村OB会長の『中央会という会は本当にOBを大切にしてくれる会で・・・』との挨拶の言葉に現役を離れてもこうして大勢のOBの方が集まってくださる会風に感謝するとともに、先輩・後輩の強い絆を感じた。

ゴルフコンペの成績発表のあと、恒例のチャリティーオークションが行われた。30周年記念事業の運転資金の一部となるこのオークションは会員ひとりひとりから品物が集められた。福田一哉総務委員長、市位清明県会長の名司会のもと大変な盛り上がりを見せ、当初20～30万円位がいいところではないかとの予想をはるかにうわまわる41万1千猶予円ものお金が集まった。

30周年記念事業の成功へ向けて弾みを付けることができた1日であった。

(広報：木下立己)

5月度各委員会報告書

情報メディア委員会

平成16年5月10日(月) 於：米子コンベンションセンター第5会議室
出席者/11名
内容/担当例会最終打ち合わせ、中央会HPサンプルページについて

5月担当例会のタイムスケジュール再確認、また前回打ち合わせからの変更部分、担当割付の再配分と確認などを行った。

また、懸案だったメールでの例会案内は、事務局の「万全を期してからはじめたい」との意向から今回は見送り、そのためのメールアドレス使用順位の確認をした。

HPのサンプルページの検討は、会員企業のカテゴリー分けの作業しか進んでいなかったため来月の委員会報告の準備作業に譲る。

政治行政委員会

平成16年5月13日(木) 於：ホールサムインかいけ 出席者/6名
内容/1年間のまとめと反省

今年度政治行政委員会は、「環境」「教育」「観光」の3つのプロジェクトチームを置き、それぞれのテーマで勉強してきた。今月は1年間のまとめと反省を行った。

《環境チーム》

「地区別、他自治体単位で勉強会をしなければいけないとおもう。知らない事が多すぎる」等

《教育チーム》

「先生の仕事が多すぎる」「先生と生徒のコミュニケーションが少ない」「最終的な結論は出ないと考えられる」

《観光チーム》

「地元のことを理解していない人が多い」「今から皆生温泉に風景を作るのはお金が掛かりすぎる。結局、境港・松江などを交えて広域観光にするより今のところ手はない」等

国際交流委員会

平成16年5月13日(木) 於：ホールサムインかいけ 出席者/13名
内容/外部講師講演

講師：前田照義氏(航空自衛隊美保基地監理部長)

演題：イラク復興支援派遣輸送任務に参加して

今月は、講師に前田照義2等空佐をお迎えしてオープン委員会(他委員会より4名参加)として開催した。

「昨年12月20日に指令がきて、同月24日に成田空港よりクウェート(リアルサレム)に出発。現地では水が無いので、海水を沸かして水を作った。

現地の人の暮らしは、税金がなく、病院・学校・公共施設は全て無料で、とにかく治安が非常によい。ただし、外国人労働者約150万人には社会保障は無い。

また、現地の人には納期の感覚が無く、何回も催促をしないと物が届かない。物資・機材等を発注しても2週間はかかったり・・・』等々のお話があり、質疑応答を行い終演となった。

経営委員会

平成16年5月12日(水) 於：米子食品会館 出席者/12名
内容/1年間のまとめと反省

花園委員長から「前半の活動については焦点が定まらない部分があったが、後半の活動は講師講演・座禅など幅広く有意義な活動ができた」との反省とまとめがあった。

桑垣副会長と出席した各会員からも感想を募り、異口同音に「楽しい雰囲気勉強できた」ことを発言した。

年度の終わりまで活発な意見交換ができる、チームワークのとれた委員会であった。

地域ビジョン委員会

平成16年5月11日(火) 於：ホールサムインかいけ 出席者/7名
内容/1年間のまとめと反省

1年間の活動を振り返って、委員会メンバーがひとりひとり発表した。

「5人の講師を呼んで話を聞いたが、本音を語ってもらえてよかった」「ひとつの町としてどうするかというまとまりがなく、全体としてのビジョンがないので困る」「皆生温泉の経営者の悩みを聞いたが、自分の会社にも当てはまることあって参考になった」「町を活性化するにはのぼせもんが必要だ」等の意見が出て、6月例会での委員会まとめの方向性を語った。

広報委員会

平成16年5月11日(火) 於：大連 出席者/11名
内容/ハンサム6月号の編集、担当例会打ち合わせ他

ハンサム6月号の記事案・担当者を決定したほか、委員会報告ならびに卒会寄稿文の進捗状況を確認した。また、6月担当例会の進行内容について協議し、担当者等細部を詰める作業を行った。次月委員会までに例会会場でのリハーサルを行うこととした。

総務委員会

平成16年5月7日(金) 於：ホールサムインかいけ 出席者/10名
内容/総会、卒会式について

まずは、4月レクリエーション例会(運動会)の反省を行った。「テントは各委員会にお任せした子供(特に幼児)には必要であった」「管理の悪さで紛失することを避けるために公金で購入した物の管理場所の検討を」等の意見が出た。

続いて、30周年記念総会・卒会式・懇親会の件を進行・演出を軸に話し合った。

30周年記念事業委員会

平成16年5月10日(月) 於：米子食品会館 出席者/5名
内容/30周年事業進捗状況把握

浜田会長・門脇直前会長をはじめ、各分会リーダーを迎え、委員会は実行委員会責任者会議を兼ねて行われた。

周年事業各分会の進捗状況について各分会リーダーより報告が行われたあと、予算編成や式典のタイムスケジュール(案)について各部より活発に意見が出された。また、式典用ビデオ後の「提言」は式典の内容にそぐうものとするを確認した。

30周年記念事業を控えて

鳥取県西部中小企業青年中央会 OB会会長 中村昌哲

鳥取県西部中小企業青年中央会、30周年おめでとうございます。

一口に30年と言いますが、その歳月たるや歴代会長・OB会の皆さんを中心とした会員諸氏の努力の賜物であるとおもいます。また、30年の伝統と歴史の重みを十二分に理解し、現役会員がその力を結集して西部青年中央会を発展させている姿や目の輝き・パワーに対し心から敬意を表します。

昭和50年の西部青年中央会発足時に加入させてもらったものの、右も左もわからない「井の中の蛙」であった小生。先輩方を見れば、西部を代表されるような偉大な人ばかり。例会・委員会に出席しても部屋の一番末席に正座し、今は亡き岩坂和男君と小さくなってたころが懐かしく思い出されます。「何が何でも」と真面目に会合に出席し、講師先生はもちろんのことで会員諸氏の会話を聞いて勉強させてもらおうという気持ちでいっぱいでありました。今日の私自身があるのも西部青年中央会で育ててもらったおかげであると言っても過言ではないとおもっています。また、13代目の会長を拝命し、過ごした1年間の思い出は一生の宝物として私の心の中に残っています。

現在、西部地域に多くの経済団体が存在している中、先輩諸氏に心から敬意を表してくれている会はこの中央会が一番であるとおもいます。現役会員がここまで西部青年中央会を発展させ続けていることに対し、私どもOBは感謝の気持ちでいっぱいです。

大変おがましいお願いではありますが、OBの皆さまが30周年式典と記念事業へ是非とも積極的に参加いただきますと同時に、現役会員の負担軽減等に対して全面的な協力を約束いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

伝心伝承

当コーナーでは会長、県会長経験者の方々に「中央海」という大海原での羅針盤たる助言・苦言をいただきます。11回目は第27期会長岩田慎介OBです。



一中央会に入った頃のことを教えていただきたいのですが？

入るときは自分の仕事に中央会を役立てようという気持ちはなかったな。人を見ること、人に出会うことを目的として入ったから。オーナーでない人の考えもわかりたかった。入ってから事情があって休みがちだったが、かわいがってくれる先輩が多かったな。死ぬまで修行という考えで人のいいところを吸収しようという気持ちがあったな。

一役を受けることについてどうおもわれますか？

絶対いいことだ。メリハリがつくしね。毎年平均点で参加というよりも、仕事で大変な面はあるとおもうがやる時にはやるということが絶対大事だね。中央会は選ばれた人が入ってくるわけだからレベル的には高いとおもう。

自分が好きになると相手も好きになってくれるし、自分が心を許すと相手も心を許してくれる。心のキャッチボールができる人がたくさんいる会だからその中で役を受けるということは自分がすごく大人になれるチャンスだね。

一会長をされた頃のことを教えていただきたいのですが？

自分でも誇れることはたくさんの人と信頼関係ができたことかな。自分が一番勉強をさせてもらったな。これは皆さんに感謝している。残念なのは自分が先輩から教えてもらったものを後輩たちに伝え切れなかったことかな。人事、特に委員長に関しては「こいつにやらせてみたい、こいつをお世にしたい、完成してない人間を完成させたい」という想いと、自分も一緒になって大人になっていこうとの想いがあった。

入った頃は「自分が何かを言えば次のことを考えてくれて言葉をくれる」そんな人が多かった。だから色々な展開があった。そのころに比べると人としての味や魅力を失った人間が多くなった。もう少しはじめやモラルをもって礼節を重んじる人たちの集まりになってほしかった。中央会の良さをひきついで、新たに改革すべきところは軌道修正したかった。それが「温故知新」に込めた想いだった。

一最後に現役会員へのメッセージをお願いします

出合いが全てである。中央会には素晴らしい人がたくさんいるから、その人たちのいいところをおなががいっぱいになるくらい吸収してほしい。そして言うべきことはきちんと言う。しかし、そのあとのフォローは大切である。

これは一番力がかかることだ。そういう謙虚な気持ちがあればきっと会の運営、会社の運営もうまくいくとおもう。

(広報：松江智雄)

言わしてごしない 其の十巻

バックヤッロー！

バックヤッロー！！腹が立つ！ムカツク！

どうして今年4月から消費税が総額表示になるんだ！どちらの消費者団体様がシュプレヒコールをあげての大運動があったの？ どうして米国が、欧州が、総額表示だと日本も右へならえしなくてはならないのだ！！どうして消費税が3%から5%に増税変更になった時に総額表示変更をしなかったのだ！！

どうせ現状の5%税率も増税変更になるのに、なぜその時まで待てないのだ。中小零細企業がお得意様に商品を納めるとはどういうことかわかっているのだろうか？5%消費税の全部または一部を業者が負担している現実を知っているのだろうか？法律の変更、行政の指導が度々あると我々はこうした経費負担を強いられ非常に迷惑なのだ。

ちょっと前に遡ると、食品に関する法律の主なものだけでも平成13年4月11日より「遺伝子組換え食品の表示に関する法律」が施行され、平成14年4月1日より「アレルギー物質を含む食品に関する表示」が完全義務化され、さらに、平成15年4月1日からは「容器包装に関する表示義務」が完全実施された。食品に関する法律だけでもどうしてこうも毎年毎年追加変更が繰り返されるのだ。

我が社のこれらに対応していない残りの包装資材をどうしてくれるんだ。数百万円分の包装資材在庫処分を行ったうえに、産業廃棄物扱いとされ処分代まで支払って・・・本当にどえらいこっちゃ。あーあ、書いてあるだけで気分が悪い。吐き気がする。この頃と言えば、未納・未納・未納問題ばかり。国民年金を納めていなかった？バックヤッロー。制度不備な法律を沢山つくりやがって。いったい何をしているんだ。腹が立つ。

最後にもう一言。バックヤッロー！！

(ペンネーム：腹立ち人)

我輩はライフセーバーである！

ライフセーバーといえば、殆どの方がまず「人命救助をする人たち」という言葉と共に屈強な身体をした人間の集団を連想されるでしょう。実際私もこの活動を始めるまではそうしたイメージでライフセービング活動を捉えていました。しかし、実際の活動はこうしたイメージだけのものでは無いことにすぐ気がつきました。

「快適で安全な水辺の環境整備」がこの活動の最大の目的なのです。ですから、ゴミ拾いも立派なライフセービング活動なのです。また、危険を予測して未然に事故を防ぐために海岸利用者に対して注意を促すのも同様に重要な活動です。したがって、泳げなくてもこの活動に参加することが出来るのです。現在60名のメンバーの内、泳げないものが20名。中には車椅子のライフセーバーも所属しています。

自然が大好きで地域社会に少しでも役に立ちたいと考えている人なら誰でもこの活動に参加できるのです。皆さん朝日町のネオン街を徘徊する蝙蝠(こうもり)生活以外にもこんな活動があるのですよ。ご参加お待ちしています。(皆)

6月役員会報告

6月定例役員会が平成16年6月1日(水)、食品会館において開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- (1) 6月例会(臨時総会)開催の件
- (2) 30周年記念事業の件
- (3) トライアスロンボランティアの件
- (4) その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

6月例会ならびに臨時総会案内

と き：平成16年6月17日(木) 18時30分～
と ころ：米子文化ホール イベントホール

内 容：平成15年度委員会報告ならびに次年度委員長抱負

新社屋落成

遠藤健司会員(国際交流)

所属企業：有限会社ケンスホーム

住 所：〒684-0032 境港市元町25(旧番地から変更)

電 話：0859-42-4420(変更なし)

F A X：0859-42-5092(変更なし)

新社屋での営業を開始されました。ますますの御発展をお祈りします。

海外支社開業

高橋隆一会員(政治行政)

所属企業：有限会社亀山社中 ソウル支社

住 所：ソウル市中区忠武路1街25-9

電 話：02-757-4432

F A X：02-757-4432

ソウル行き予定がある際には何なりとご相談ください。明洞までは歩いて3分くらいです。(高橋)